



その5

開発建設部

那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路、石川バイパスの供用

石川バイパスの供用

走行車両の通過音の低減を図る対策を実施しています。
なお、今後は豊見城ICから那覇空港南IC（仮称）間の早期供用に向けて鋭意事業を推進して参ります。

1 豊見城東道路の供用について
那覇空港自動車道は沖縄自動車道（延長五十七km、昭和六十二年全線供用）と那覇空港を結ぶ延長約二十kmの高規格幹線道路で、沖縄自動車道とともに沖縄本島を南北に縦貫する基幹交通軸を形成する自動車専用道路です。

豊見城東道路は、一般国道五〇六号那覇空港自動車道の一翼を担うものであり、豊見城市字名嘉地から南風原町字山川に至る延長約六・一kmのうち橋梁部が四・三km、トンネル部が一・五km、土工部が〇・四kmとなっています。豊見城東道路は、平成三年度に事業化し、平成五年度に用地買収着手、平成九年三月に工事着手し、鋭意事業を推進し、南風原南ICから

豊見城東道路は、一般国道五〇六号那覇空港自動車道の一翼を担うものであり、豊見城市字名嘉地から南風原町字山川に至る延長約六・一kmのうち橋梁部が四・三km、トンネル部が一・五km、土工部が〇・四kmとなっています。豊見城東道路は、平成三年度に事業化し、平成五年度に用地買収着手、平成九年三月に工事着手し、鋭意事業を推進し、南風原南ICから

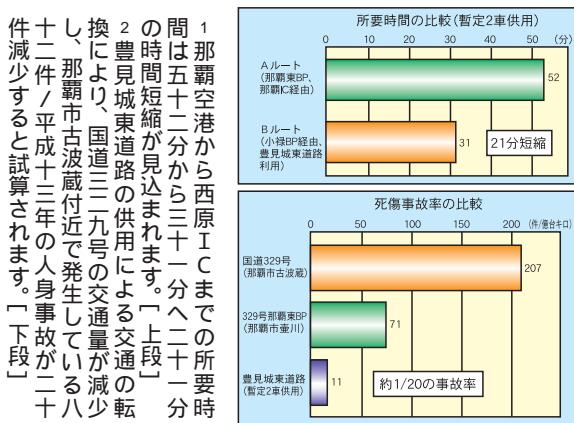


図1 平面図



開通式（平成15年4月26日）



至豊見城 豊見城IC付近



2

読谷道路の供用について

沖縄西海岸道路は、読谷村から糸満市までの約五十kmを結ぶ、地域高規格道路です。

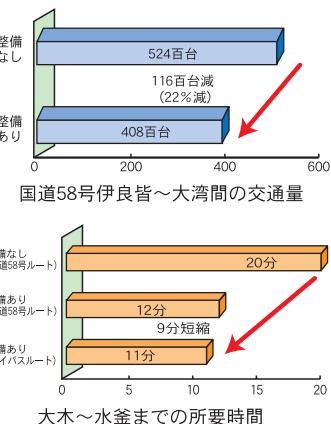
沖縄西海岸道路の一部となる読谷道路は、読谷村親志の国道五十号から同村古堅に至る延長六・〇kmの道路です。この道路が完成することにより本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、読谷村、嘉手納町の国道五十八号の交通渋滞の緩和はもとより、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路となります。

読谷道路は、昭和六十二年度に事業化し、平成十一年三月には道路整備のため嘉手納弾薬庫地区とトリイ通信施設の一部が返還され銳意事業を進めています。

今回（平成十五年四月十六日）供用された読谷道路の暫定供用区間は、大木地区県道六号線から古堅地区県道十六号線に至る延長一・三kmです。本区間の早期供用を図ることにより、読谷村伊良皆から嘉手納町水釜までの国道五十号の渋滞緩和が見込まれるとともに、地域通学児童の交通安全確保の為、暫定供用区間東側に歩道を設置しました。



開通式（平成15年4月16日）



平面図

昭和六十三年に事業化し、平成十二年までの間、早期に整備効果を発現させるために段階的に五・九kmの供用を行つてきました。平成十五年三月二七日（木）に県道六号線～石川市山城間〇・五kmを供用し、暫定二車線ではありますが石川バイパスが全線供用となりました。

平成十五年三月二七日（木）に石川市楚南～沖縄市後原間一・八kmを供用し、暫定二車線ではありますが石川バイパスが全線供用となりました。

石川バイパス供用による効果

石川バイパス供用後に交通量調査を実施し、バイパス供用による効果を調査しました。

石川バイパス供用後現道区間の交通量が減少し、バイパスに交通が転換していることがうかがえます。また、金武町屋嘉～沖縄市後原間の通過時間も短縮しており、石川バイパス供用による効果が現れています。



開通式（平成15年3月27日）

